

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

“過去・現在，そして未来へ” ずっとつなごう ぼくらの町・賀茂
～ 地域に誇りと愛着をもつ賀茂っ子の育成 ～

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution (please use extra sheets if necessary)

Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校は、賀茂町の1つの町のみを学区とする豊橋市で1番児童数の少ない学校である。学区には豊橋で1番大きな豊川が流れ、豊かな自然に恵まれている。地域の自然、歴史、また人材をいかした地域との連携を強く意識した数多くの教育活動の実践を行っている。そこで、さらに地域をみつめ・地域の暮らしを知り、地域に学び、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育をすすめることとした。地域と連携した学習を系統的に行うとともに持続可能な開発のための教育(ESD)を推進することを通して、郷土を愛する健やかな子どもの育成を目指している。

ESDを確実に推進するために全教職員で学習を深め、これまでの教育課程から、生活科・総合的な学習の時間を中心に精選をする。それとともに学校と地域のかかわりをさらに密にし、地域の大人すべてが子どもに目を向けかかわっていく風土を醸成し、地域ぐるみの教育システムの構築をすすめる。また、ESDを実践することで、将来にわたって、自分の地域のよさに気づかせ、地域に誇りと愛着を育むことができる子を育てていきたい。

Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校は、ESDで育みたい力を「環境保全」と「地域の暮らしと歴史」の観点から、地域とのつながりを深めて、持続可能な社会の担い手を育てていきたい。自分たちの地域の環境や暮らしと歴史を調べることで、地域に誇りもち、持続可能な将来が実現できるような価値観と行動力を培ってきたい。

そのために以下4つの活動で、次のように目標を掲げる。

(1) 地域教育ボランティアと取り組む農業体験

- ① 広大な農園・水田を利用した年間を通しての農業体験
- ② 地域の特産物の柿・桃・苺の農業体験
- ③ 収穫物を利用した野外活動とお世話になった人に感謝し、収穫に感謝する「ひとのお集会」
平成17年度に発足した地域教育ボランティア「親ガモの会」の方に学びながら、野菜づくりや米づくりに取り組むことで、それに携わる人の努力と情熱にふれ、地域の産業の素晴らしさに気づかせる。また、お世話になった方々に1年の成果を発表し、老人会・保護者・保育園、世代をこえて地域全体で収穫の喜びを分かち合う「餅つき」を実施し、人との関わり、つながりを重視していく姿勢を養う。

(2) 学区を流れる豊川と、その支流の間川の環境調査と保全活動

- ① 豊川・間川の生態系の調査
- ② 豊川・間川の水質調査と水生生物調査
- ③ 豊川の上流校の鳳来西小学校との交流

学区を流れる豊川・間川の自然環境と豊川の下流や上流の環境を比較・調査しながら、環境保全の大切さに気づき、地域の環境美化と保全意識を高める。

(3) 地域の伝統文化や歴史にふれる活動

- ① 賀茂神社の歴史と周辺古墳群の話をお宮司さんに聞く活動と現地調査
- ② 豊川の霞堤や賀茂の人々の歴史を地域の有識者に聞く活動

③地域の老人会「葵会」の方から伝統的な遊びを学ぶ会

地域のお年寄りや有識者との交流を通して、地域のくらし、伝統、歴史を学び、それを誇りとして伝承し、地域の一員として自覚をもたせる。

(4) ホタルの飼育活動

①ホタルの産卵から飼育、また放流活動を通しての環境保全活動

②餌となるカワニナ採取による地域を理解する活動

③ホタルの発生状況の調査を地域に発信

環境保全のシンボルとなるホタルの飼育活動を通して、地域の環境への関心と保全の意識を高め、地域に誇りと愛着心を育むようにする。

Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

本校では、前述のとおり、ESDで育みたい力を「環境保全」と「地域のくらしと歴史」の観点から学習をすすめている。学習を深めることで、地域とのつながりが生まれ、持続可能な社会づくりの担い手を育むことができると考える。

賀茂は、賀茂神社を祭ることとなった130年ほど昔より「賀茂」と呼ばれ、豊川に抱かれた学区である。江戸時代から豊川の霞堤が存在する。霞堤は増水時の水勢をそぐためや堤防が切れるのを防ぎ豊川下流域を守るためのものである。また、洪水によるよく肥えた泥土を厚く積み重ね、作物がよくとれるようにした地域である。豊川の利水に努め農業を振興してきた人々の努力は今も賀茂のくらしに引き継がれて農業が地域の中心の産業である。また、豊川や、その支流の間川の流れを保全しようとする取り組みがある。自分たちの地域の環境や歴史を調べる学習を軸とすることで、今日的課題を把握し、解決に向けて行動できる子どもの育成や地域に誇りを持ち、持続可能な社会をつくる資質や能力の基礎的な部分を育てることができると考える。

(1) 活動を進めるためのESDアクティビティプログラム(4年生の例)

教科領域	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会	ごみの処理と利用		水はどこから								
理科	季節と生き物(春)		季節と生き物(夏)		季節と生き物(秋)				季節と生き物(冬) 自然の中の水		
総合		水生生物調査 ・水質検査 中流と下流 と比較調査		鳳来西小との交流 (上流調査)		みずのわ集会・全校の総合のまとめの発表会					
行事	ウォークイン賀茂	530運動								ひとのわ集会	ホタル放流

(2) 地域教育ボランティアと取り組む農業体験

- ・ 粃の発芽、苗づくり、代かき、田植え、はざかけ、稲刈りの一連の稲作体験(5・6年)【写真1】と、どろんこ体験(全校)
- ・ 地域の特産品の柿・桃・苺の5年の農業体験
- ・ 農園を利用した農業体験、1年(オクラ・キュウリ・ミニトマト)、2年(スイカ、ダイコン、キャベツ)3年(アズキ)4年(ダイズ)、5年(ニンジン)、6年(タマネギ、ジャガイモ)
- 全学年でサツマイモづくり
- ・ 収穫した米、ニンジン、タマネギ、ジャガイモとスイカを野外活動で利用(4・5・6年)
- ・ 収穫したもち米でお世話になった方々を招いての餅つき、収穫し手作りしたきな粉(ダイズ)、あんこ(アズキ)で味付けをして御もてなしをする「ひとのわ集会」【写真2】(全校)



写真1



写真2

(3) 学区を流れる豊川と、その支流の間川の環境調査と保全活動

- ・全校で学区を散策するウォークイン賀茂（全校）
- ・豊川・間川のリバーウォークで地域を流れる河川の周辺の自然環境を知る活動（3・4年）
- ・豊川の下流・中流での水生生物調査・水質調査【写真3】（4年）
- ・鳳来西小との交流で上流の水生生物と水質調査と総合的な学習の発表【写真4】（4・5年）



写真3



写真4

(4) 地域の伝統文化や歴史にふれる活動

- ・賀茂神社の宮司さんに収蔵されている資料から学ぶ活動【写真5】（6年）
- ・賀茂学区にある古墳群を調査する活動（6年）
- ・学区の有識者から学ぶ賀茂の歴史やくらしを考える上で重要な豊川の霞堤の現地調査（5年）
- ・竹とんぼ・お手玉・おはじき・メンコの作り方と遊び方を地域の老人会の方々から保護者とともに学ぶ「三世代ふれあい活動」【写真6】（全校）



写真5



写真6

(5) ホタルの飼育活動

- ・「ホタルの飛び交う町」にもどそうを合言葉にホタルの飼育活動（6年）
- ・豊川や学区内の水路を調べホタルの餌となるカワニナの採取（6年）
- ・豊川の支流の間川の水質改善のための自作の炭をつめた袋を設置【写真7】（6年）
- ・孵化したホタルの幼虫を3月に放流【写真8】（全校）



写真7



写真8

Type of materials to be used (使用する教材)

- 「学区のあゆみ 賀茂」 賀茂学区史編集委員会 2006
- 「ふるさと 賀茂」 賀茂学区文化協会 2013
- 多賀谷式「コンテナ循環浄化冷却法 ゲンジボタルの飼育法」 2012
- 「小学校 キャリア教育の手引き」 文部科学省 2010
- 「かがやくとよはし」 豊橋市教育委員会 2012
- 「キャリア教育ノート」夢を見つけ夢をかなえる航海ノート 愛知県教育委員会 2012

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

児童の理解と姿勢の評価は、以下のように行う。

- ・児童の様々な活動への取り組みの成果を事後のまとめや感想、発表から把握する。
- ・学習や活動のまとめとして、7月「鳳来西小との交流」、10月「みずのわ集会」、2月「ひとのわ集会」で成果の発表を行い、意欲、態度を観察して評価する。
上記の評価とともに、さらに下記のことを実践して、ESD活動のさらなる充実を図る。
- ・7月と12月に、学校評価アンケートで、保護者・児童・教職員を対象に「地域にあった教育活動」「地域の方の力を生かした教育活動」などの項目について、学習への取り組みを調査する。
- ・2月に、児童の実態や地域の特色にそったカリキュラムになるように、次年度の学習活動の改善・方針を全教職員で検討する協議会を設ける。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

18/Dec. /2013

Date (日付)

校長, 豊橋市立賀茂小学校

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職)

Institution's name (学校名)